

大網ニ發生セル血管腫ノ鼠蹊部 ヘルニヤ」ノ一手術例

岩手醫學專門學校外科學教室(副島教授指導)

金澤醫科大學病理學教室(杉山教授指導)

加 藤 稔

(昭和11年9月12日受附)

目 次

緒 言	第3章 結 論
第1章 症 例	第4章 文 獻
第2章 切除セル標本所見	

緒 言

蟲様突起ヲ「ヘルニヤ」内容トセルモノ、又ハ左側卵巣ヲ右側鼠蹊部ヘルニヤ内容トシテ有セン症例ノ報告ハ既ニ多數擧ゲラレ敢テ奇トスルニ足ラザルモ、大網血管腫ヲ「ヘルニヤ」内容トシ然カモ其ノ腫瘍ノ脱出ニ因リ非還納性トナリタル症例ノ報告ハ未ダ極メテ少數例ニ過ギズ。

余ガ茲ニ報告セントスル症例ハ、從來頭部、稀ニ前膊ニノミ發現シ得ルモノトセラレタル蔓狀血管腫ガ廣ク大網ニ發生セルモノニシテ、此ノ蔓狀血管腫ヲ形成セル大網中ニ更ニ鶏卵大ノ硬度鞏ノ腫瘤ヲ形成シ該腫瘤ノ「ヘルニヤ」囊内脱出ニ因リ非還納性トナリタルモノナリ。

大網ニ於ケル蔓狀血管腫ノ報告ハ余ノ寡聞未ダ之レヲ知ラズ。茲ニ新例ヲ報告スルト共ニ該大網蔓狀血管腫中ニ重複シテ出現セル前記鶏卵大腫瘤ト「ヘルニヤ」トノ關係ニ就キ些カ所見ヲ述べ諸賢ノ批判ヲ乞ハントス。

第1章 症 例

患 者

水上某、35歳男、職業運動具店、初診昭和9年5月20日。

主 訴

非還納性右陰囊内巨大腫瘍。

家族歴

父系並ニ母系ノ祖父母ハ老衰死、兩親ハ尙ホ健在、兄弟、子供其ノ他家族ニ結核及ビ癌疾患ニテ斃レタル者ナク又脱腸ヲ有セルモノナシ。

前病歴

患者ハ生後間モナク右鼠蹊部ヘルニヤ」ヲ有セリ。而シテ該「ヘルニヤ」ハ2歳頃ヨリ時々軽度ノ箆頓様

症狀ヲ現ハセシコトアリシモ「タキシス」ニヨリ比較的速カニ還納セルヲ常トシ何等苦痛ナク未ダ嘗テ非還納性トナリシ事ナク中學時代野球選手、其ノ他諸種運動競技ノ選手トシテ活動スル事ヲ得タリ。小兒期ニ麻疹ヲ經過セル以外著患ナク身體スコブル強健ナリ。

現病歴

昭和9年3月(約2ヶ月以前)突然腹痛ヲ訴ヘ體温38度ニ上昇ス。當時患者自身右下腹部即チ右外鼠蹊孔上方ノ部ニ鶏卵大ノ硬度鞏ノ腫瘤アルヲ氣付ケリ該腫瘤ハ少シク壓痛ヲ有セリ。然レドモ易ク還納シ何等ノ異常ヲ認メザリシト、當時某醫ハ急性蟲様突起炎ト診斷シ、他ノ某醫ハ排便、放屁等ノ障碍ナキノ故ヲ以テ腸カタル」ノ診斷ヲ下シ温罨法ヲ施シタルニ數日ニシテ該腫瘤ハ消失シ約10日間ニシテ全快セリ。

然ルニ昭和9年5月19日旅行中旅宿ニ於テ夜半ヨリ「ヘルニヤ内容ハ脱出セルマ、還納セズ、陰囊ハ初生兒頭大トナリ特ニ其ノ中ニ1個ノ鶏卵大ノ硬度鞏ノ腫瘤ノ鼠蹊部ニ存在スルヲ氣付ケリ。然レドモ殆ソド何等ノ苦痛ヲ有セズ。放屁正常、患者ハ翌朝直チニ旅行先キヨリ歸還シ、翌日(5月20日)我々ノ教室ニ收容サレタリ。

食欲正常、便痛1日1行、睡眠正常、咳嗽ナシ。

現症

身長中等大、骨骼強壯、皮下脂肪織及ビ筋肉ノ發育佳良、皮膚ノ色正常、顔貌正常ニシテ苦痛ノ表情ナシ。眼瞼及ビ眼球結膜正常、顔面及ビ頭部ニ異常ナシ、頸部淋巴腺腫脹ヲ認メズ。胸廓強大ニシテ心臓及ビ兩肺ニ病的所見ナシ。肺肝境界ハ右乳線上ニ於テ第6肋骨上ノ高サニ存ス。腹部膨滿ナク又壓痛ヲ訴フル部ナシ。腹壁脂肪ノ發育著明ナル他異常ヲ認メズ。四肢ニ異常ナク腱反射等正常、體温36度8分、脈搏72、規則正シク緊張強シ。

局所々見

右側陰囊ハ約大人手拳大ニ腫脹スルモ陰囊外皮ハ尙ホ著明ノ皺襞ヲ有シ(患者ハ從前ノ箱頓様發作ノ際ハ之レヨリ尙ホ著シク大ナリシト云フ)、而シテ該陰囊腫脹ノ最上部即チ正ニ外鼠蹊輪ノ部ニ相當シ約鶏卵大ホゞ球形ノ弾性鞏ノ硬度ヲ有スル腫瘤アリテ軽度ノ壓痛ヲ有ス。他ノ「ヘルニヤ内容ハ柔軟ニシテ殆ソド壓痛ヲ有セズ又蠕動不安等ナク「ヘルニヤ内容ハ大綱ナル事ヲ想像シ得。而シテ上部ノ前記鞏ノ硬度ヲ有スル鶏卵大腫瘤ハ上述ノ如ク糞塊ヲ想像セシムルガ如キ性狀ヲ有スルモ病歴ニ示ス如ク排便、放屁等正常ナルヲ以テ正確ニ決定スル事能ハズ。而シテ之ノ腫瘤ハ外鼠蹊輪ニ強ク固定シテ動かズ非還納性トナリタル原因ガ之ノ腫瘤ニ在ル事ハ明カナリ。陰囊外表ニハ發赤、浮腫ナシ。腹部ハ膨大其ノ他ノ異常ヲ認メズ。

血液所見

白血球數7500

中性嗜好細胞61%

エオジン嗜好細胞1%

鹽基性色素嗜好細胞0.5%

淋巴球27.5%

大單核細胞5%

血液「ワ」氏反應及ビ村田共ニ陰性。

尿、淡黃色透明ニシテ蛋白及ビ糖ヲ有セズ。

以上ノ如キ所見ヨリ右側外鼠蹊非還納性脱腸ノ診斷ノモトニ即日手術ヲ行フ。

手術所見

型ノ如ク局所麻酔ニテ右側外鼠蹊管ニ沿ヒ約8糎ノ皮切ヲ加フ。皮下脂肪層著シク厚キモ他ニ異常ヲ認メズ。「ヘルニヤ」嚢内容ハ淡赤色ヲ呈セル滲出液ト小兒手拳大ノ大綱組織ニテ、少シク暗紫色ヲ呈シ上方ノ鶏卵大腫瘤モ亦大綱自身ノ腫瘤ナル事ヲ認メタリ。然カモ該腫瘤モ外鼠蹊管ト殆ソド何等ノ癒着ヲ示サズ。故ニ脱出セル部ノ大綱ヲ該腫瘤ト共ニ切除スル爲メニ腫瘤ヲ少シク引キ出シタルニ大綱ノ形狀ハ全ク正常ノモノト其ノ趣ヲ異ニシ、「クラゲ」ノ足ヲ引キ出ス如ク無數ニ不規則ナル繩狀トナリテ引キ出サレタリ。而シテ「ヘルニヤ」内容トシテ脱出セル部分ハ全ク其ノ一部分ノ數條ナル事ヲ確メタリ。而シテ之等各條ハ殆ソド小指大又ハ小鉛筆大ノ暗青色ヲ呈セル蜿蜒曲折セル血管ノ露出ニシテ、其ノ周圍ニ少許ノ小形脂肪塊ガ附着セル状態ヲ呈ス。恰モ蚯蚓ノ錯綜セルガ如キ狀ヲナス(附圖第1參照)。故ニ20數個所ニ於テ二重結紮切斷ヲ行ヒテ遂ニ腫瘤ト共ニ脱出セル大綱ヲ切除ス。而シテバッシニー氏法ニ從ヒテ手術ヲ終ル。手術時間約45分ナリ。

術後ノ経過

手術後ノ経過良好ニシテ第7日目全抜糸ヲ行フニ手術創ハ第1期癒合ヲ以テ治癒シ、第15日目全治退院ス。手術後今日ニ至ルモ何等ノ障碍ナク患者ハ益々健康體トナリ元氣ニ職業ニ従事ス。

第2章 切除標本所見

(イ) 肉眼的所見

切除セル標本ハ附圖(第1圖)ニ示セル如ク全ク大ナル「クラゲ」ノ足ヲ想像セシムル如キ索條様ヲ呈ス。而シテ全量850瓦ヲ算ス。切除後ノ標本ニ於テハ切除前巨大ナリシ血管ハ萎縮シテ其ノ色ハ暗青色ノ度ヲ減ジ全體トシテ淡黄赤色ヲ呈ス。而シテ各索條ハ小指大又ハ小鉛筆大ニシテ擴張蜿蜒、管壁肥厚シ恰モ多數ノ蚯蚓ノ錯綜セルガ如キ狀ヲ呈シ其ノ周圍ニ少許ノ脂肪附着ス。切除セル大綱ノ略々中央ニ約鶏卵大ノ腫瘤アリ、其ノ硬度ハ鞏、實質性ニシテ該腫瘤ニ前記蚯蚓ノ錯綜セルガ如キ索條物多數ニ纏絡セルモノナリ。腫瘤ノ形ハ略々卵圓形、色黄褐色其ノ大サ長軸5糎、短軸4糎其ノ剖面ハ實質性汚穢暗褐色ヲ呈スレドモ其ノ色ノ濃度一様ナラズ、所々淡黄色又ハ淡白灰色等ヲ呈スル部分アリテ之等ノ部分ハ組織ノ壊死ニ陥リツ、アル部分ナル事ヲ思ハシメ、肉眼的ニハ眞性腫瘍ニ非ザラヲ思ハシム。該腫瘤ノ附近ニ數個ノ小指頭大ニシテ脂肪ノ附着セル硬度鞏ノ小腫瘤ヲ認メソノ剖面モ亦前記腫瘤ト同状態ヲ示ス。

(ロ) 組織學的所見

該鶏卵大ノ腫瘤ノ顯鏡的所見トシテハ(「チエロイゲン包埋、厚サ10 μ ニシテ「ヘマトキシリン、エオジン染色ヲ施ス)脂肪組織ノ間ニ不規則ニ新生サレタル血管ヲ見ル。ソノ大ナルモノハ管壁ニ滑平筋纖維ヲ有シテ血管壁ノ肥厚及ビ内皮細胞ノ増生ヲ認ム。大ナル血管内ニハ稍々多數ノ赤血球ヲ認ム又血管内外ニハ白血球ノ浸潤ヲ認ム。本第2圖ニ示ス如シ。

以上ノ所見ヨリシテ單純性血管腫ト蔓狀血管腫トガ合併シテ大綱ニ生ジタモノト思考ス。

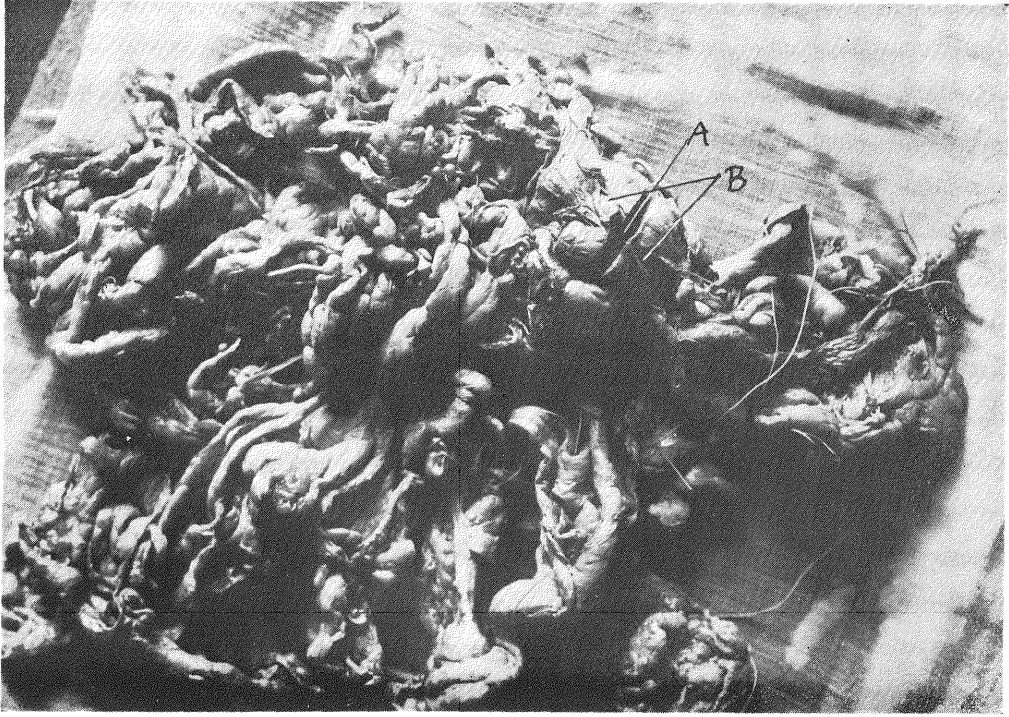
第3章 結 論

1. 本例ハ蔓狀血管腫ト單純性血管腫ト合併シテ大綱ニ發生シ、右鼠蹊部ヘルニヤ嚢内ニ箝頓セル一手術例ナリ。

2. 病歴ニ示ス如ク患者ハ生後間モナク右鼠蹊部ヘルニヤ」ヲ有シ2歳頃ヨリ時々軽度ノ箝

加藤論文附圖

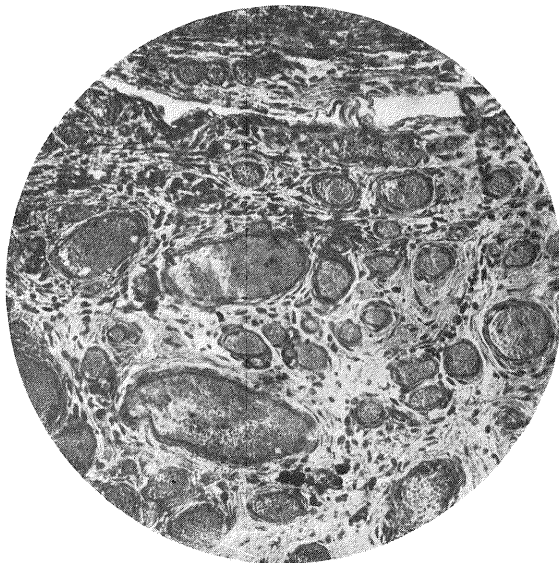
第 1 圖



A へ腫瘤剖面

B へ腫瘤

第 2 圖



頓様症狀ヲ現ハセシコトアリ、其ノ後徐々ニ増大セシモノナラン。

第 4 章 文 獻

- 1) **Witzel**, Netztumoren Deutsche Zeitschrift f. Chir. 1885, Bd. 21, S. 139. 2) **Nordmann**,
 Netztorsion, Deutsche med. Wochenschr. 1903, Nr. 28. 3) **v. Baracz**, Netztorsion Deutsche
 Zeitschr. f. Chir. Bd. 54, S. 584. 4) **Hocheneegg**, Netztorsion Wiener Klin. Wochenschrift.
 1900, Nr. 13. 5) **Bormann**, Pseudonetztumoren Grenzgeb. Bd. 6, S. 522. 6) **H. Brann**
 (**Göttingen**), Über entzündliche Geschwulst des Netzes : Langenbecks Arch. für Klin. Chir. Bd.
 67, S. 378. 7) Handbuch, der speziellen pathologischen Anatomie und Histologie. II. Herz
 und Gefäße. S. 892. 8) **岩藤**, 慢性炎症性網膜腫瘍ニ就テ, 岡山醫學會雜誌. 43卷, 12號, (昭
 和 6 年). 9) **松井**, 鼻血管腫ノ 1 例, 耳鼻咽喉科. 6 卷, 1 號, 65, (昭和 8 年). 10) **鈴木**,
 頭皮蔓狀血管腫ノ 1 例, 岡山醫學會雜誌. 45, 2 號, 464, (昭和 8 年). 11) **東**, 腹部腫瘍ノ診
 斷附血管腫, 臨講. 50號, 2521. 12) **松井**, 多發性血管腫ノ 1 例, 皮膚科紀要. 13卷, 2 號,
 241. 13) **澤田**, 皮下海綿様血管筋纖維腫, 皮膚科紀要. 6 卷, 6 號, 568. 14) **藤田**, 一種
 特異ナル靜脈炎ニ就テ, 皮膚科泌尿器科雜誌. 31卷, 7 號, 1066. 15) **田中**, 病理總論. 中卷,
 S. 270. 16) **山極**, 病理總論講義. S. 930. 17) **今**, 近世病理學總論. S. 193.

附 圖 說 明

第 1 圖 血管腫全體 (全摘出標本) ノ寫眞.

第 2 圖 鶏卵大單純性血管腫ノ部ノ顯微鏡的所見ノ寫眞.